

佐藤栄司さん定年ご退職について

佐藤栄司さんが本年度をもって定年退職されます。OB・OGの皆様にはどうぞ感謝と慰労のお言葉をお伝えくださいますようお願い申し上げます。

栄司さんのプロフィール

佐藤栄司さんは昭和 23 年に宮城県でお生まれになりました。昭和 41 年に古川工業高等学校土木工学科を卒業後、直ちに東北大学工学部土木工学科応用水理学研究室に技官として採用されました。当時は河海工学研究室の岩崎敏夫教授が兼任され、海岸構造物の実験に広く取り組まれました。昭和 42 年からは佐藤弘さんと栄司さんの二人の技官体制が平成 12 年 3 月まで 33 年間続きました。昭和 43 年に岩崎先生が研究室の専任に、昭和 43 年に片平から青葉山へ移転、昭和 51 年に海岸水理学研究室に名称変更、昭和 59 年に岩崎先生退官、昭和 60 年に澤本先生赴任、平成 8 年に水環境システム学研究室に改称（大学院重点化）、平成 14 年の土木棟改修、平成 15 年の工学研究科総合棟建設に伴う新実験室の設置、現在までと当研究室の歴史全てを経験されてこられました。

その間、実験装置と観測センサーの開発に取り組み、研究室の業績に大きく貢献しました。卒業研究や修士、博士の研究において、栄司さんの存在なしでは成し得なかった学生も数多くいます。学生実験の指導には長く関わられ、その経験をもとに多くの科学研究費補助金を獲得されています。この業績が認められ平成 19 年に、工学研究科長教育賞、土木学会技術功労賞と続けて受賞されました。

栄司さんの人柄は、皆様ご存知のように「しぶい」に集約されているのではないのでしょうか？ 一見コワモテに見えますが、毎日小牛田からサングラスをかけて愛車で通勤する姿は、俳優のようでもありました。仕事に関しては、几帳面であり、実験室を散らかしていても翌日には片付いていることがよくありました。

ご退職後は、ご家族との時間に多く費やされると同時に地域貢献に力を注がれると推察されます。今後も実験室について時々面倒を見てもらう予定です。これまで同様、ご指導とご鞭撻をお願いする次第です。

（東北大学環境科学研究科 風間聡）



佐藤弘さん退官記念のとき。平成 12 年。



昭和 46 年。右端が栄司さん。



昭和 55 年。阿部先生退官時。



昭和 61 年。現場見学会。



昭和 56 年卯花さんと。

澤本教授赴任以降作成された実験装置システム

振動流境界層実験，乱流構造解析実験，砕波実験，水弁式波力発電実験，シートフロー，混相流実験，複断面水路密度流実験，振動水柱型低層酸素供給装置実験，地中流浸透実験

業績

- 1992 年 科学研究費奨励研究(B)「簡易な可視化装置の開発とその学生実験への適用」
- 1996 年 科学研究費奨励研究(B)「簡易な多点式波高計の開発とその学生実験への適用」
- 1999 年 科学研究費奨励研究(B)「簡易な波長・波速測定装置の開発とその学生実験への適用」
- 2000 年 科学研究費奨励研究(B)「簡易な多測点波速測定装置の開発とその学生実験への適用」
- 2001 年 東北大学工学研究科・工学部技術職員技術開発助成「小型模型実験造波水路用消波装置（手法）の開発」

2006 年 科学研究費奨励研究「水理実験における実流量計測の簡易な手法(装置)の開発」

2007 年 工学研究科長教育賞

2007 年 土木学会技術功労賞

沢本正樹，唐木毅，佐藤栄司，粗面振動流境界層の乱流構造，海岸工学論文集，36，1-5，1989.

橋本敦，佐藤英資，佐藤栄司，沢本正樹，水弁式波力発電ケ-ソンの連成による集約特性，海岸工学論文集，42，1006-1010，1995.

佐藤英資，佐藤栄司，沢本正樹，水弁集約式波力発電システムにおける整流弁(水弁)の損失特性，海洋開発論文集，12，213-218，1996.

山城朋明，沢本正樹，佐藤栄司，風間聡，振動水柱型底層酸素供給装置の特性，水工学論文集，45，1219-1224，2001.

川越清樹，風間聡，佐藤栄司，沢本正樹，落葉層の貯留効果に関する基礎的研究，水工学論文集，49，187-192，2005.